

～ All for one, One for all. ～

# 光 の 家

THE LIGHT HOUSE FOR THE BLIND

視覚障害者総合福祉施設  
東京光の家会報

— 201 号 —

2019 年 4 月 25 日発行

## 創世記

神は「光あれ」と言われた。すると光があった。神はその光を見て、良しとされた。神はその光とやみとを分けられた。神は光を昼と名づけ、やみを夜と名づけられた。夕となり、また朝となった。第一日である。

第一章三節～五節



今年も桜咲いたね！

## 会報五言

- 一、 厳寒を経験した者は、春の優しい春の時を感謝する。これが人生の真実なる原理である。
- 一、 それにしても春夏秋冬、春夏秋冬と繰り返し返される日本は何と恵まれた自然環境だと言うべきか。感謝・感激である。
- 一、 待ちに待った桜の花もあつという間に葉桜に移った。これが人生の時間の移り変わりか。遅れないように、しっかりと時間を使おう。
- 一、 今日も少しく、明日も少しく一つ一つ善を積もう。
- 一、 一つ一つの平凡な事が積み上げられて、偉大な事に育って行く。だから小事にも精神を込め全力をつくしてあたって行こう。

# 「創立百周年を迎える東京光の家」

東京光の家理事長 石渡 健太郎



この度、昨年の二月二三日  
に田中亮治東京光の家前理事  
長が天に召され、二月の二六  
日の理事会において理事長に  
選任されました石渡健太郎で  
す。

四五年間に渡り東京光の家  
の理事長として多大な功績を  
残した田中前理事長を失った  
東京光の家は深い悲しみに包  
まれました。

創立者秋元梅吉から光の家  
の基本理念であるキリスト教  
精神をしっかりと引き継いだ田  
中前理事長は救護施設を母体

に身体障害者授産施設、身体  
障害者更生施設と新たな事業  
を展開し、最近においては知  
的障害者向けの通所就労事業  
所、グループホーム等へと事業  
を拡大して今年、創立百周年  
を迎えるはずでしたがそれが  
出来ずに本人が一番残念な思い  
だったに違いありません。

したがって残された私ども  
は田中前理事長が大切にして  
きた「信仰」を守りながらしつ  
かりと意志を引き継いで創立  
百周年を迎えなければならな  
いと思っています。

東京光の家の基本方針の中  
に「独自の質の高いサービスの  
提供を」と謳っているところが  
ありますがサブタイトルとし  
て「創立の精神を堅く守りな  
がら、時代の変化に柔軟に対  
応し、社会的ニーズに適切に

応える東京光の家ならではの  
質の高いサービスの提供に努力  
すること」となっています。

まさにこの基本方針は東京  
光の家がこの百年の歴史の中で  
実践してきたことではないかと  
思います。

つまり、盲人に聖書の福音  
を、という創立者の基本精神  
を大切にしながら視覚障害者  
の入所施設として発足した東  
京光の家はその後、視覚障害  
者の専門施設としてより専門  
性の高い視覚障害者のための  
訓練施設や就労施設を併設し  
てきました。

また、最近では地域福祉に  
貢献していくという時代の変  
化に柔軟に対応した地域の知  
的障害者を対象にした通所就  
労施設を開設するに到りまし  
た。

更に「住まいの場」も入所  
から地域移行や地域生活がで  
きるグループホームへと「住ま  
いの場」も選択できるようにな

りました。

このように専門性の向上や  
地域福祉に貢献していく今の  
時代の変化にずっと東京光の  
家是对応してきて現在がある  
と感じています。

今後も定款上に記載されて  
いる「創立の精神であるキリ  
スト教精神を基本理念として」  
時代に則した社会的ニーズを  
捉え、障害者福祉や地域福祉  
に貢献できるよう事業展開を  
していくことが今も昔も変わ  
らない光の家の社会的使命・  
責任だと思えます。

この愛の実践によって東京光  
の家の利用者ひとりひとりが  
信仰の光の力を与えられ、希  
望と喜びに満ちた生活が実現  
できると信じています。

今年、創立百周年を迎える  
東京光の家ですがこの百年の  
歴史を土台に更なる百年間、  
持続可能な東京光の家にする  
ためにまた、新たな一歩を踏  
み出していききたいと思えます。

平成三〇年度  
**締めくくりの会**  
 平成三一年三月二〇日(水)～二六日(火)

今年度も東京光の家各施設で年度末の恒例行事である「締めくくりの会」が行われました。第一部の式典では石渡理事長、各施設長、招待者からのご挨拶があり、特に頑張った利用者や、永年勤続の利用者の表彰が行われ、三〇年度を振り返りました。第二部の会食では美味し

い食事を頂きながら、演劇や音楽の演奏などが行われました。訓練や仕事の成果が実ったことは、ボランティア、保護者など多くの方々からの支えによるものと結ばれた縁と一年間を無事に納めることができたことに感謝しました。



「納め会」 演奏する新生園利用者



「みのりの会」 表彰される栄光園利用者



「結の会」 ダンスする就労ホーム利用者



「感謝会」 聖書朗読する神愛園利用者

法人役員

理事長  
 石渡 健太郎

理事

相澤 忠一  
 亀岡 寛治  
 篠崎 友照  
 杉山 吉昭  
 松本 栄二  
 (五十音順)

監事

白井 富士夫  
 藤田 洋

顧問

杉山 閑男

評議員

安藤 藤子  
 岩島 瑠  
 梅田 俊幸  
 加藤 保和  
 佐藤 義和  
 引下 勝一  
 横山 公一  
 (五十音順)

# 社会福祉法人東京光の家前理事長 故 田中亮治 葬儀・告別式

平成三〇年二月三日、田中前理事長が天に召されました。  
二月二十九日(土)に行われた葬儀・告別式には、多くの方々の  
ご列席、弔辞を賜りました。その中から、一部ではありますが、  
ご紹介いたします。

## 式 辞

東京光の家理事 相澤 忠一

嗚呼、勇士は倒れたるかな。  
サムエル後書のこの言葉はその  
まま今の私の心境です。

私の足はがたがたです。筋肉の  
衰えではありません。田中理事  
長という支えを失ったからです。  
田中理事長が光の家に対して、

為された御貢献は誠に大きく  
て、とても一言で申しあげる訳  
には参りません。  
一九七五年に光の家の理事長  
に御就任されて以来、四〇年余  
にわたって、一日二十四時間、一  
年三百六十五日、一日一刻の猶  
予もなく、光の家の全責任を一  
身に負って、働き続けられまし  
た。これは人間業とは思われな  
い、大偉業でありました。

田中理事長、どうぞ、御安  
心ください。後を継いだ石渡新  
理事長は、キリスト教精神に基  
づいて、光の家の運営にあたる  
決意を表明されております。職  
員一同も、田中理事長の切なる  
願いを拝して、園生の処遇にあ  
たってくれるものと私は確信し  
ております。



笑顔の田中前理事長の遺影

## 弔 辞

社会福祉法人聖明福祉協会

理事長 本間 昭雄

田中亮治先生、今日は何とい  
う辛い悲しい日でしょう。

今遺影の前に立ち、呼べども  
答えぬ君に別れの言葉を述べな  
ければならないことはとても辛  
いことです。

今から五十数年前。「東京光  
の家」の創設者でありました秋  
元梅吉先生の手引きをされ、ご  
一緒に日本盲人社会福祉施設協

議会の役員会や総会で度々お会  
いして以来、今日までご交誼を  
いただきました。  
半世紀を越す歲月には言い  
尽くせない思い出がありすぎて、  
語り尽くせません。  
創設からやがて二〇〇年を迎  
えようとしている「東京光の家」  
は秋元梅吉先生の手により「救  
護施設」から始まり、引き継  
がれた先生はノゾミ夫人ととも  
に今日のような近代的救護施  
設の体系をつくり、充実を計ら  
れました。そしてその全国組織

## 社会福祉法人東京光の家前理事長 故 田中亮治 葬儀・告別式 次第

司 会：東京光の家 総務部課長 大堀 五晴  
司 式：東京光の家 理事 相澤 忠一  
奏 楽：光の家新生園 高橋 正秋

- ・讃美歌 291 番
- ・聖書朗読 ヨハネの黙示録 第 21 章 1 節～4 節  
光の家神愛園 原田 和秀
- ・開会の祈禱 光の家神愛園副園長 藤巻 契司
- ・故人略歴 光の家神愛園係長 榎本 隼人
- ・式 辞 東京光の家 理事 相澤 忠一
- ・祈 禱 東京光の家 理事 相澤 忠一
- ・弔 辞 社会福祉法人聖明福祉協会 理事長 本間 昭雄

東京都社会福祉協議会  
社会福祉法人経営者協議会 会長

川川 卓正  
東京光の家顧問弁護士 小嶋 正  
東京光の家利用者代表 井澤 栄次

- ・讃美歌 539 番
- ・葬儀委員長挨拶 東京光の家 理事長 石渡 健太郎
- ・喪主挨拶 長女 松岡 奈保美
- ・献花

のリーダーとして大きな実績を残されました。

今お別れのときに当たり、先生を慕う寮生の方々もどんなにか悲しいことでしょう。

どうか生涯をかけて守り育て、発展充実させた「東京光の家」そして、遺された親族の方々の平安を天国からお護りください。敬愛してやまない友に謹んでお別れの言葉を捧げます。

安らかにお休みください。

東京都社会福祉協議会

社会福祉法人経営者協議会会長

品川 卓正

先生、こんにちは、御遺影を拝見いたしました。つい、声を掛けたくりました。でも残念ながら、声をお掛けしてもこれまでのご挨拶の時のように「ああ、どうもご苦勞様です」という返事を本日は頂く事ができません。大変寂しい限りでございます。

田中先生に初めてお会いしたのは昭和五十五年、私が村山荘

の施設長に就任し、最初の救護部会に出席した時でございます。それから約四十年もお付き合いを頂きました。

先生にはこれまで、このことに限らず、色んな場面で御助言を頂いてきました。今日、私が色々なところで活動させて頂いているのは、全て、先生のお陰だと思っております。改めて感謝申し上げます。

田中先生どうか、東京光の家をはじめ、私どもを末永く、見守ってくださいますよう、お願いいたします。大変名残惜しくは存じますが、ここに謹んで



出棺を見送る方々



献花をする利用者のみなさん

哀悼の意を表し、心からのご冥福をお祈りいたします。

東京光の家顧問弁護士

小嶋 正

生前、田中理事長からは長らく、東京光の家の顧問を務めさせて頂いていた私の父、小島豊郎と申しますが、大変深い御親交を頂戴しておりました。本日は本年十月に他界をいたしました。父に代わりまして私から弔辞を伝える次第でございます。

田中亮治先生は東京光の家

の理事長としての功績に留まらず、我が国の障害者福祉並びに救護施設に於ける利用者支援、

それらの発展に多大の功績を残されました。そしてその田中理事長のお人柄はと言いますと、弱気を助け強気を挫くといったそういう気風の紳士でした。園生を心から愛し、職員にも敬愛の念を持って、決して驕

らず。田中理事長の生涯はまさに愛情という言葉で尽くされていくように思えてなりません。

田中理事長が生前、多くの者に注がれてきた深い深い愛情に心より感謝申し上げると共に、本日謹んで哀悼の意を表したいと思います。

田中理事長先生、どうか空の彼方から御遺族の皆様、そしてこの東京光の家を末永く見守っててください。



大勢の方よりお花を頂きました

平成三二年度

新任職員紹介

今年は、東京光の家に、八名の新任職員が加わりました。  
ご紹介します。

光の家栄光園



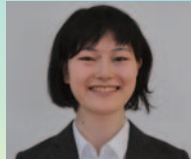
杜 亭  
就労支援課 2係

光の家栄光園



並木 佐紀  
生活支援課 生活支援係

光の家新生園



森井 詩都  
訓練課 作業訓練係

総務部



國本 理恵子  
医務課 医務係

光の家就労ホーム



小林 典夫  
就労支援担当

光の家神愛園



笹平 大和  
支援課 生活係

総務部



田中 朋子  
食事課 栄養管理係

総務部



野本 拓穂  
食事課 栄養管理係



視覚障害者バレーボールを体験する  
旭が丘小のみなさん

二月から三月にかけて、日野市内の小学校三校から、たくさん小学生が、視覚障害者の世界を体験するために、光の家を訪れました。  
視覚障害の方の歩行ガイドや、視覚障害用の卓球やバレーボールなどを行い、見えない世界と、その方を援助する体験をして頂きました。

**小学生の見学**  
東京光の家の福祉教育への取り組み

- 二月三日 日野第五小学校 二二五名
- 三月四日 日野第六小学校 二四六名
- 三月七日 旭が丘小学校 一〇七名



サウンドテーブルテニスを体験する  
日野六小のみなさん



アイマスク体験（介添え歩行）をする  
日野五小のみなさん

平成三一年度

入所式

平成三二年四月一日(月) 光の家就労ホーム  
平成三二年四月五日(金) 光の家新生園

新たな年号「令和」の発表が行われた最中、今年度も光の家就労ホーム、光の家新生園それぞれで入所式が行われました。

光の家就労ホームでは七名の利用者を迎えました。新しい門出に緊張しつつも、先輩方から歓迎してもらい、安心した様子で最後には笑顔も見られました。



光の家就労ホーム入所式(7名)

また光の家新生園でも二名の仲間を迎えました。お二人共立派に自己紹介をした後、先輩方から励ましの言葉と歓迎の音楽を披露していただき、温かく迎え入れてもらいました。

両日とも桜が満開になり、新たな生活を応援してくれているようでした。



光の家新生園入所式(2名)

フラメンコ団  
光の家に来たる!

平成三二年四月三日(土)  
東京光の家講堂

エイデル研究所の和田氏による、なかなか生で聴けない迫力あるフラメンコ団のタップやカスタネット等の音に、利用者のみなさんは、大喜びでした。



フラメンコダンサーの見事な踊り!



フラメンコのカスタネット触らせて!

寄付者名簿

平成三〇年二月八日  
三年三月三〇日

山口	智之様	りんご	一〇kg
松田	明子様	りんご	一〇kg
太田	美幸様	みかん	一〇kg
安積	和男様	漬物	二kg
林	アツ子様	商品券	二枚
坂本	昭一様	米(玄米)	三〇kg
米倉	清治様	米	二七.五kg
江川	幸子様	マリンバ	一台
向井	富士枝様	ミシン	一台
岩井	正義様	純子様 人参	二〇kg
渡邊	幹男様	キウイ	二kg
小園江	康様	干しいも	一五kg
株式会社リード・リアルエステート	米	箱	一五kg
トイレットペーパー	ニロール×二	箱	五箱×五
箱ティッシュ			
小林	真美様	拡大読書器	一台
北矢	行男様	じゃがいも	一五kg
		醤油	三ℓ
平野	英夫様	だしスープ	二四本
		ゼリー飲料	二四本
河村	正様	玄米	五四kg
		ねぎ	六七kg
堺野	昭勇様	能面	三個

※紙面の写真は、すべてご本人の許可を得て掲載させて頂きました。

# 第二回 手さぐりの作品展

平成三一年二月二十八日(木) / 三月五日(火)  
会場…とよだ市民ギャラリー



会場中央に設置された「白鳥丸」

触って感じる事ができる作品展「手さぐりの作品展」が、今年は「旅」をテーマに開催されました。施設の旅行先で体験したことを訓練の集大成として、皆で協力して表現しました。今年度は福島県会津地方の猪苗代湖で乗船した遊覧船「白



手で触りながら「これは何かな？」

鳥丸」を籐細工にて作り、会場の中央に設置しました。その他和紙を使って水の流れも表現しました。今年で二二回目となりましたが、多くの方々にお越し頂きましたこと、感謝申し上げます。



タコだあ～



これって～ひよこ？！

発行 一九一〇〇六五  
東京都市野市旭が丘一七  
社会福祉法人 東京光の家  
電話 〇四二(五八)二三四〇  
FAX 〇四二(五八)九五六八



気持ち新たに5名の門出！

今年も成人の日に、光の家新生園から二名、光の家就労ホームから三名の「新成人」が誕生しました。新成人の五名は、各施設の利用者が見守る中、立派に二〇歳の抱負を語り、大人の仲間入りを果たしました。これからの活躍がとても楽しみです。

新成人を祝う会  
平成三一年一月四日(月)  
会場…東京光の家 講堂